



第一礼拝次第

説教：渡真利彦文牧師

前奏			
頌栄	540	会衆	
主の祈り		〃	
プレイズ	「日の昇る所から」 「静まって知れ」	〃	
聖書朗読	使徒言行録1：1-11	司会	
祈禱	(新約聖書 p213)		
賛美	67	会衆	
説教	「わたしの証人」	牧師	
祈禱			
賛美	新生557	会衆	
献金			
報栄		司会	
頌祝	新生672b	会衆	
祈禱		牧師	



第二礼拝次第

説教：渡真利彦文牧師

- 聖書：出エジプト記3：11-15
 メッセージ：「わたしは何者でしょうか」
 プレイズ：「世界に告げよ」「大波のように」
 賛美：新生272 聖歌244



ファミリー礼拝

- 説教：渡真利千佳子姉
 聖書：使徒8：1b～8
 メッセージ：「散らされた人々は」

<巻頭言>

「ペンテコステの恵み」

牧師 渡真利彦文

人々は思い通りの形や大きさに砕いたり削ったりできる「れんが」と、それを接着する「アスファルト」（瀝青）を発明しました。この発明は彼らに大きな自信と自らの力を誇る思いを与えることになりました。彼らは神を賛美する道具であるはずの言葉をもって、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。」(創世記 11:4) と語り合い、言葉を神に対する人間の優越性を確認し合う道具として誤って用いました。このような人間の傲慢、神への反逆な思いが一致した象徴として建てられたのが「バベルの塔」でした。神抜きの一一致は神以外のものを偶像化するのです。あなたの生活は神を神とする生活ですか。

主は人間の傲慢な罪の行動をご覧になり、その言葉を混乱させました。共通語と言われる英語を用いても国際会議は混乱します。同じ言葉を使っている場合でさえ、夫婦、親子、友人の間で本意が伝わらない経験をします。バベルの塔以来のこうした混乱は、ある意味で今も続いているのです。しかし、2000年前のペンテコステの時、約束の聖霊が降り、「一同は聖霊で満たされ、“霊”が語らせるままに、他の国々の言葉で話し出した」(使徒2：4) のです。バベルの塔以来の言葉の回復のために、主は福音の言葉という共通語をもって神の民を再び集めてくださるのです。主の御業を覚え、ほめたたえましょう。